

落花らっか
(徳富蘇峰とくとみそほう)

蝶舞蜂歌到處宜
早春何若晚春好
香雲漠漠草離離
滿袖輕風花落時

蝶ちようは 舞まい 蜂はちは 歌うたう 到いたる 処ところ 宜よろし

解説 落花の景に寄せて晩春のよさを詠じた詩。

香雲かううん 漠々ぼくぼくたり 草くさ 離々りりたり

語釈 ※香雲||群がり咲く花の様子。※漠漠||一面に広がるさま。
※離離||草の生い茂るさま。※何若||何は反語。どうして〜に及ぶだろうか。いや〜に及ばない。※滿袖||袖いっぱい。
※輕風||晩春に吹く暖かみを帯びた心地よい風。

早春そうしゆん 何ぞなん 若しかん 晩春ばんしゆんの 好よきに

通釈 蝶は舞い、蜂は歌うかのように羽音をたてて自由に飛び回り、行く処の、こうした春の風情は心地よいものがある。桜花が雲のように咲きほこり、青葉が勢いよく生い茂っている。早春の

滿袖まんしゆうの 輕風けいふう 花はな 落おつるの 時とき

景など、この晩春の景には及びもつかないだろう。袖いっぱい、軽やかな風が吹き、花が散る好時節になった。